



# 高校生に対する情報リテラシー教育の一環として

— SNS (Facebook mixi Twitter 他) の利便性とリスクについて —

埼玉県立新座総合技術高等学校教諭 並木 通男

中東の混乱が広がっています。エジプト・チュニア・リビア・イラン。中東以外でも北朝鮮・中国など、民主化運動の波は私たちの予想を超えてさまざまな広がりを見せています。

その原動力となったのがインターネット上のコミュニティサイト SNS であることはご存じの通りです。若年層を中心に利用が拡大し、Facebook に改革を呼びかけるページが開設されたことをきっかけに、数十万人の人々がデモに参加するなど、その影響力は計り知れません。情報の格差が取り払われたことにより、自国と海外の状況の格差を知ることで、不満が爆発したとも考えられます。

また、東日本大震災では、混乱する情報網の中で、Twitter が給水状況や避難場所の連絡、安否の確認に大きく貢献したことも記憶に新たです。

情報の即時性、情報の共有は私たちの生活様式を一変する力をもっています。SNS とは、その利便性とは、そしてそこに潜むリスクとは。非技術的な側面から SNS を見てみましょう。

## Q 1 SNS について

さまざまな SNS がありますが、そもそも SNS とはどのようなサービスなのですか？

ソーシャルネットワークサービス (SNS) とはユーザが発信した情報をきっかけに、さまざまな参加者が互いに感想や意見をやり取りできる Web サービスのことです。映画でも有名になりましたが、当初、特定の出身大学の卒業生のみが利用できる、社交的な場として Web サービスが利用されました。ユーザ登録した者同士が、ネット上でコミュニティを形成し、日常の出来事や趣味に関することなどを、画像や動画を交えて情報交換するものです。代表的な SNS には次のような機能が挙げられます。

- 1) ブログ機能
- 2) 友人や同窓生を探す検索機能
- 3) 情報交換の場としてのコミュニティ機能
- 4) 写真・動画の共有機能

日本の利用者の数値は、調査機関によってさまざまですが、Twitter が約 1,500 万人、mixi は約 2,000 万人、Facebook は 400 万人となっています。世界では Facebook の利用者が 6 億人を越えたといわれています。この資料が皆さんの目に触れる頃にはさらに増加していることと思います。

近年の SNS 数は増加傾向にあり、メジャーな SNS から、特定の分野に限定した小規模の SNS まで、その数は把握することができません。ここでは、代表的な SNS についてその特徴をご紹介します。

分野	名称	サービス内容
総合的なサービスの提供	フェイスブック (Facebook)	コミュニティ機能や友人検索機能などさまざまな機能を持つ。
	ミクシィ (mixi)	フェイスブックと同様な機能を備え、特に日本人ユーザが多し。
短文投稿	ツイッター (Twitter)	140文字の短文投稿が可能で、ブログより短縮性に優れた投稿サービスを提供。
	タンブラー (Tumblr)	ブログや短文投稿機能に、気に入ったウェブサイトを共有するソーシャルブックマーク機能を提供。
音楽関連	ラストエフエム (Lastfm)	音楽関連の情報交換を目的とした SNS。
携帯電話向け	グリー (GREE)	SNS の基本的な機能の他に、ゲームやオリジナルキャラクタ作成のアプリ機能を提供。
	モバイルゲータウン (moba)	ゲーム・占い・小説・日記機能などを提供。携帯電話専用の SNS だが、パソコンでの利用も可能。
GPS 機能端末	フォースクエア (Foursquare)	GPS 機能のついた携帯端末向けのサービスを提供。特定のエリアでチェックイン (Looin) して

情報交換の場としての SNS は、その利用目的によって使い分けると有効なツールでしょう。

研究分野についての情報交換の場として利用する、旧友と出会う、同じ趣味の人脈を広げる、同窓会を企画するなどその利用範囲は様々です。

企業も SNS を利用した広告を始めました。衣料や自動車などの消費財を扱う大手を中心に、自社製品の販売拡大を目的としたサイトを開設するなど、SNS を媒体とした広告市場は急速に拡大しています。Foursquare (フォースクエア) は、自分がレストランなどでチェックインし、自分の現在位置や、お店のお勧めメニューなどの感想を添えて発信するこ

とで、近くにいる人とのコミュニケーションを図る、位置情報に基づいた SNS です。

チェックインすることでポイントが与えられ、レストランで割引の特典が受けられることから Twitter の次世代版として利用者が急増しています。



## Q2 代表的な SNS の特徴

Facebook, mixi, Twitter などいろいろな SNS がありますが、その違いがわかりません。

ここでは現在、世界的な広がりを見せる Facebook を中心に、代表的な三つの SNS についてご紹介します。詳しい使い方は雑誌などが充実していますのでそちらを参考にしてください。

### Facebook (フェイスブック)

Facebook の特徴は、ユーザ同士が友人としてつながり、情報を共有することです。これは mixi と共通する機能ですが、Facebook が他の SNS と異なる点は、実名登録と顔写真の掲載を強く推奨していることです。



自分のプロフィール（名前や顔写真、出身校や勤務先）などをもとに知り合いを探し、友達登録することで互いの情報を交換し合います。また、友人の友人とも交流することで、複数のユーザと随時情報を共有できることから、著名人などが「Facebook ページ」を作り情報を発信して交流を深めています。友達間ではお互いに投稿した内容に対して、コメントを付けて交換し、「いいね！」ボタンをクリックして共感を示すことができます。自分の投稿に何人が共感しているかなども見ることができるわけです。

### Mixi (ミクシー)

2004 年サービスを開始した SNS で、日本でもユーザが多く、開始当初、会員からの招待がなければ

登録できないことからソーシャルな会員サイトとして人気を集めました。昨年 3 月から自由に登録できるようになりました。登録年齢は 15 歳以上で、15～17 歳までは利用できる機能が制限されます。

開始当初は実名での登録を推奨していましたが、見知らぬユーザに個人情報を知られてしまうこともあり、現在では、友人同士に通じ合う呼び名を推奨しています。現住所や年齢、性別の登録が必須ですが、公開範囲を制限する機能がありますので、プライベートな情報は友人同士間のみの公開が可能です。

お互いに面識のあるコミュニティでは、「マイミクシィ」に友人登録して、趣味や近況報告などを交換し合います。また、「コミュニティ」に参加することで、不特定多数のユーザとさまざまな情報を交換することも可能です。自分のページにアクセスがあった場合には、ユーザ名と回数が履歴として残りますので、相手のページにアクセスして交流を広めることもできます。

### Twitter (ツイッター)

「ツイート」と言う言葉が流行語にもなった Twitter は、2010 年爆発的なブームとなりました。140 文字以内の短文投稿は、その機能や手軽さからネット上でのつぶやきを共有するものとして流行しました。

メディアでも、番組の Web ページにツイートボタンを設け、番組への意見や感想を気軽に投稿してもらい、パーソナリティがツイートのコメントを読み上げながら番組を構成するなど、リアルタイムな情報交換番組も増えています。

Twitter では、ユーザ同士はフォローという形態でつながります。フォローとは投稿された内容に興味があれば、そのユーザのツイートを継続して読むために受信設定することで、フォローしているユーザの投稿を一覧することができます。

以下にそれぞれの特徴をまとめましたので、自分の目的に合った SNS を利用すると良いでしょう。

	Facebook	mixi	Twitter
プロフィール	実名が原則	実名推奨、匿名が多い	匿名が多い
プライバシー設定	性別・生年月日・現住所・職業の公開範囲を詳細に設定	性別・生年月日・現住所・職業の公開範囲を詳細に設定	自分をフォローする相手へのみ可能
友人間の登録	相互の承認が必要	相互の承認が必要	一方的な登録
人間関係	特定された交友とネット上の交友が混在	特定された交友が多い	交友関係が薄い

### Q3 利用上の注意点

生徒が利用する上で注意すべき点がありましたら、教えてください。

インターネットが流行し始めたとき、アダルトサイト利用の不正請求や、携帯電話での詐欺などが後を絶ちませんでした。急速な広がりを見せる情報交換ツールは、便利な反面、使い方を誤ると他人を傷付けるとともに、自分もリスクを負うことになります。

#### 1. プライバシーの問題

SNS を利用する上で注意すべき点として、本名、自分の顔写真、学歴（出身高校や大学等）、自宅の住所・電話番号など、個人が特定される情報は公開しないほうが良いと言われています。ただ、こうした制約は本来の SNS 機能を制限してしまいます。そこで、情報が流れても特に支障のない範囲で公開することが SNS を有効に利用する上で必要になります。SNS には詳細なプライバシー機能がありますので、公開する情報の内容や伝えたい相手の範囲など十分に配慮する必要があります。

ただし、個人情報の共有が友人内のみに限られているから安心かといえば、必ずしもそうではありません。たとえば、セキュリティを「友達の友達に個人の情報を教える」という設定にした場合、友人の友人が、別の友人とつながっていれば、自分の情報は管理できる範囲を超えることになります。有名人などの Facebook ページで友人設定されると、まず情報の拡散は防止できません。

また、Foursquare のように自分が現在いる位置を他人に教えることは、思わぬ事故につながる可能性もあります。利用者の中には、チェックインするタイミングを、あえてその場を退席する時にするなどの防衛策をとっている人もいます。こうした配慮は、個人情報のみならず、悪意をもった第三者から身を守るうえで大切なことでしょう。

#### 2. 公共意識の問題

メールでは、相手の顔が見えないことから、言葉足らずの内容が誤解されてしまうことがよくあります。「一度流れてしまった情報は消すことができない」と思えばまちがいないネットの世界では、情報の流し方によっては、多くの人々に多大な影響を与えてしまう危険があります。

今回の災害では Twitter を通じて有効なコメントが流され大きな力となりました。その反面、心ないコメントを投稿する人もいました。また、チェーンメールを利用して、コンビナート火災についての誤った噂が流されました。

昨年では、Twitter に職場でしか知りえない顧客に関するプライバシーの情報を流したとして問題となった事件がありました。その際、多くの利用者からモラルに反する行為を諷める意見が寄せられましたが、もはや、モラルに頼るだけではコントロールできない社会であることは悲しい現実です。

内定をもらった大学生が実名で登録してあるサイトに、気軽な気持ちで書き込んだ内容が社会的に許されない内容だったことから、たまたま？企業の採用担当者がそれを見て、内定が取り消されてしまったケースもあると聞いています。当然、SNS の広がりを考えれば企業側の対応も予想されます。

また、高校生が実名で友人や先生を中傷する内容や、未成年者としてふさわしくない行為を書き込んでいたことが発覚し、思わぬ展開に至ってしまったケースもあります。けっして笑えない現実です。

#### 3. 犯罪に関する問題

インターネット広告代理店のサイバーエージェントが運営するアメーバピグ (Ameba Pigu) は、アバター (自分のキャラクタ) を作り、サイバー広場において、チャットやゲームなどで交流する Web サービスです。有名人などの参加によって集客力が高まり、大きなビジネスとなっています。反面、仮想通貨で実際の物品を購入できることから、ユーザー ID の不正利用などのトラブルも発生しています。

高校生がこうしたネット世界で、自分や他人の個人情報を守る手だてを身に付け、不正な情報に惑わされないためには、具体的な数多くの事例を用いて教育することが必要でしょう。

過去、大きな政治における民主化運動においては、その背景にテレビなどのメディアが活躍しました。しかし、現在のネット社会では、個人が情報発信の主役になるとともに、情報は、既存のメディアの伝達速度を越えて私たちに伝わります。

東日本大震災の際、原子力発電所災害の報道がされているとき、別のサイトでは元原発設計者の記者会見が同時に行われ、その模様が流されました。

USTREAM（動画配信サイト）上でした。既存の組織の問題点を指摘する情報を多くの人々が目にしたことになります。内容は別として、真実を知りたいと願う人にとっては有効であり、組織にとっては脅威であることは間違いありません。ネットに流される情報の影響力が、今後益々高まることは明らかであり、既存の社会秩序を変える程の力を秘めていることは確かでしょう。

SNSは、従来の商業をベースにしたメディア（TV・ラジオ・新聞・雑誌等々）と異なり、商業ベースに乗らない自由な発信が可能なことから、新たなメディアとして位置づけされ始めました。ソーシャルメディアという概念です。

ソーシャルメディアの急速な成長に対して、従来のメディアも含めた、今ある情報をはたして正しい

ものなのか、私たち自身の価値観も変えなければならぬでしょう。情報の公開性の力に私たちはどう向き合うべきなのか、教育の重要性が益々注目される時代になりました。

高度に相互の信頼性や協力が確立した社会では、他人への警戒心が薄く、経済・治安・教育が充実され、効率性の高い社会が形成されるといわれています。ソーシャルキャピタルがその概念です。今回の災害でSNSがその一役を担ったのは確かです。SNSは今後どのような展開を見せるのでしょうか。

#### 参考：URL

Facebook <http://www.facebook.com/>

mixi <http://www.mixi.jp/>

Twitter <http://twitter.com/>

---

---

## 日本簿記学会第27回全国大会における「高校簿記教育懇談会」のお知らせ

日本簿記学会理事

横浜市立横浜商業高等学校 粕谷和生

本年の日本簿記学会第27回全国大会は、法政大学（準備委員長 菊谷正人先生）で8月26日・27日に開催されます。今年も例年どおり「高校簿記教育懇談会」を開催します。多くの皆様に参加していただけますように、8月26日（金）の午前中を予定しております。なお、従来から、本懇談会は広く高校の先生方に開かれており、会員でない先生にもご案内申し上げる次第です。

本年の「高校簿記教育懇談会」は、テーマを「IFRSと高校簿記教育」として、大学の先生方にも参加をお願いして意見交換を行いたいと考えております。また、コメンテーターには、全商の会計実務検定に携わっていらっしゃいます新田忠誓先生（一橋大学名誉教授）をお迎えする予定です。

参加をご希望の先生は、会場準備等の都合もございますので、Eメール・FAX・電話のいずれかで、お名前・学校名・連絡先を添えてお申込み下さい。特に申込の期限は設けませんので、どうか振るってご参加下さいますようお願い申し上げます。

**参加申込先** 横浜市立横浜商業高等学校 粕谷和生

Eメール [tk-kas01@edu.city.yokohama.jp](mailto:tk-kas01@edu.city.yokohama.jp)

FAX (045) 713-3969 電話 (045) 713-2323

2011年5月16日 印刷  
2011年5月23日 発行  
定価 210円  
(本体200円)

◎編修・発行

**実教出版株式会社**

代表者 戸塚 雄武

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5  
TEL. 03-3238-7777  
<http://www.jikkyo.co.jp/>